

自己評価表

1. 経営・運営

新制度に移行して、5年目となり、収支の状況、運営の流れ等についても、見通しをもって運営できるようになってきた。定員の見直しを行い、より安定的な運営ができるよう努めるとともに、引き続き、教職員の処遇改善や、認定こども園としての保育環境・運営の整備を進めていきたい。R4年度も、新型コロナウイルスへの対応に迫られたが、感染予防への配慮をしながら、おおむねの行事も実施していった。保護者の深い理解と協力のもと、子どもたちにとってよい経験を保障することについては、前年度と比べて、実現できたようである。しかしながら、保護者の行事参加については、人数制限が必要であったり、分散して行事を行ったり、細やかな工夫は必要で、おもいきり行事を楽しむところまでは至らない現状であった。また、保健衛生管理、消毒業務、感染の報告などの負担は大きく、職員の欠勤が重なるなど、日頃のような運営ができないことが続き、労力を奪われた。経営としては、おおむね安定的な運営となりつつあるが、借入金の返済、改修工事等々の支出や人件費・光熱費等の増のため、バランスを考慮して運営をしていく必要がある。そのうえで、引き続き、環境整備、および、教職員のさらなる処遇改善・労務環境の整備を計っていくこととする。

2. 教育・保育

認定こども園としての教育・保育の在り方を工夫すること、時間の使い方や、職員の配置、事務的な業務負担等について、工夫を重ねながら、園内研修の充実を図った。また、8月の幼児教育実践学会においては、東海北陸地区の担当として、自園の実践を発表することができ、ここ数年の取り組みを整理し、コロナ禍ではあるものの、できる形で保育の質の向上を図ってきたことを多くの関係者に伝える機会となった。外部研修が困難な中、教職員が、積極的に時間をつくり、園内研修を重ねていくことで、日常の保育について、話し合う風土ができつつある。感染の状況が落ち着いている時期には、異年齢での交流や、クラスをまたいで活動の積極的に行い、クラスを超えての交流できるよう意識した。昨年と比較すると、子どもたちの遊びの環境も多様になり、日々の保育が充実に向かったと評価する。次年度は、園内研修の時間の確保や、研修内容の充実に努め、実践につながるよう努めていきたい。

3. 組織・その他

事務的な業務について、コロナ対応等落ち着かない中ではあったが、どうにか運営できた。2号、3号認定の人数が増えることにより、教職員の勤務態勢も複雑化してきており、情報の共有や伝達をスムーズに行うよう工夫が必要となってきたが、実質、新たなシステムを導入するなどの余裕がないのが現状である。次年度は、ICTの積極的な活用等について検討しながら、引き続き、組織としての体制強化を図りたい。